

水稻の作柄に関する委員会（平成22年産第1回）議事要旨

1 開催日時：平成22年9月2日（木） 13:30～15:53

2 開催場所：農林水産省大臣官房統計部第1会議室

3 出席者：【委員】

染英昭座長、黒田栄喜委員、中園江委員、平澤正委員
前田修平委員、丸山幸夫委員、山岸順子委員

【事務局】

大臣官房統計部長、生産流通消費統計課長 ほか

4 議事

平成22年産水稻の8月15日現在における作柄概況及び次期調査（もみ数確定期）の実施に当たっての留意事項について

5 議事概要（○：委員からの発言）

事務局から平成22年産水稻の8月15日現在における作柄概況調査結果について説明後、各委員から意見・提言を受けた。

○ 夏をとおして記録的な高温であり、今後も高温傾向はしばらく続くと見込まれることから、高温障害による品質の低下等が懸念される。

○ 北日本から北陸、西日本の日本海側ほど気温の高い状況が続いている。特に北陸以西の多くのところでは、最高気温35度、最低気温25度を超える日が、出穂開花期を中心に続いている。高温による受精障害はこれまで日本ではほとんど心配する必要はなかったが、最高気温、最低気温ともに高い状態が続いていることもあり、受粉・受精への影響にも注視する必要がある。

○ 夜間の気温が高いことから、登熟や品質、食味への影響が懸念される。

○ 草丈が例年より長いことから、今後の台風や豪雨等による倒伏が懸念される。

○ 穂数が少ない地域では、1穂当たりもみ数がどれくらい補償されるかが作柄に大きく影響するため、その把握が重要である。

○ 梅雨明け以降の高温に対応して穂肥を減らした地域において、もみ数や登熟にどのような影響が現われるのか注視する必要がある。

○ 生育が早まったことによる刈り遅れや収穫期の雨による胴割れ米の発生で品質低下に結びつくことが懸念される。

○ メイガやウンカ類及び斑点米カメムシの発生による品質の低下に注意する必要

がある。

- これだけ気温が高いと、登熟期間が短縮する可能性がある。その結果、日照が多くても一粒重が予測したより低下することが懸念される。

上記意見を踏まえ、委員会としての意見をまとめ、その場で了承された。

(http://www.maff.go.jp/j/study/suito_sakugara/pdf/opinion_h220902.pdf)

(参考)

○会議及び議事録を非公開とする理由

今回開催した水稻の作柄に関する委員会については、当年産の水稻の作柄に関して、学識経験者等から専門的な見地から意見を聴くために開催している。その内容は、個人・地域における水稻の品質、収量等に関する事項等、特定の個人若しくは団体に不当な利益若しくは不利益をもたらす恐れがある事項が含まれること等から、会議及び議事録を非公開としている。